

## 学研・高大教育フォーラム通信③

◆8月3日(土)・4日(日)に開かれる「学研・高大教育フォーラム2019(東京・五反田)」の申し込みがいよいよ来週、6月1日から始まります。ご出席を希望される先生方は、学研模試HPで、早めにお申し込みください。

◆今回は、「大学の部」の先生方とレクチャーについて、ご紹介させていただきます。

### ・レクチャー1:「働くことのとらえ直しとキャリア教育再考」

五十嵐敦先生(福島大学教育推進機構教授)

五十嵐先生は元、福島県の高校教諭(保健体育)でした。「勉強不足を痛感」して大学院で心理学を学び、高校現場に戻った後に福島大学に勤務されるなど、ご自身も複線的なキャリアをたどってこられました。専門は「職業心理学」「発達心理学」。福島大学で全学のキャリア教育をコーディネートされる傍ら、東北や新潟などで高校教員向けの進路ガイダンスも担当されています。さらにこれまでの日本人の働き方を見直して「働く人の健康維持と生産性向上」を目指し、企業や業界団体などでキャリアガイダンスに尽力されています。今回は、大学1年生のキャリア意識関連の調査なども踏まえながら、「働くことをどうとらえ直すべきか」や「高校で行うべきキャリア教育」について、レクチャーしていただきます。高校・大学・企業の「現場」を知る五十嵐先生ならではの視点をお話いただきます。

### ・レクチャー2:「アクティブラーニング型授業のための大学図書館の役割」

長澤多代先生(三重大学地域人材教育開発機構大学図書館・学習支援部門/附属図書館研究開発室准教授)

長澤先生は、大阪ご出身。大学教育における教員と図書館員の連携について長らく研究され、フィンランド、中国、カナダの事例研究に取り組んでおられます。さらに現在、三重大学図書館で「図書館サービス論」などの司書課程科目などを担当しておられ、ラーニングコモンズとしての図書館づくりを進めてこられました。高校現場でも「総合的な探究の時間」や各教科での「探究」活動、さらに「主体的で対話的な学び」(アクティブラーニング)に向けて、図書館利用や情報検索のあり方が大きなテーマとなっています。長澤先生には、大学図書館の現状や役割、授業との関わりなどについてご紹介いただきながら、高校での「図書館」のあり方についてレクチャーいただきます。

### ・レクチャー3:「検証:テスト場面でいかなる思考力を発揮しているか」

益川弘如先生(聖心女子大学現代教養学部教育学科教授)

益川先生のご専門は学習科学、認知科学。アクティブラーニングを用いた授業づくりと評価

方法に向けて高校や大学の現場で実践的なご指導を積み重ねておられます。今回、益川先生から以下のメッセージをいただきました。

「生徒たちは、テスト場面でいかなる思考力を発揮しているのでしょうか。今回、過去出題された大学入試センター国語の現代文を対象として、生徒の思考過程を「思考発話法」などを用いて可視化する研究を行いました。講演では実際にその「発話データ」をじっくり見ていただきながら、改めて「授業を通していかなる資質・能力を育てていくか」について考えていきます」。

なお、「研究で扱った入試問題を用いて授業を実践するとどうなるの?という話について、第2日の高校の部：畑文子先生（埼玉県立大宮高校進路指導主事）の「実践：知識構成型ジグソー法～大学入試改革の風」へと続きます。センター試験を教材に、高校人と大学人の実践的なコラボレーションは非常に興味深いレクチャーです。

以上、充実したプログラムで先生方をお待ちしております。ぜひご参加くださいませ。